

## 三瓶山北の原地区における自動撮影カメラを用いた動物相調査（予察）

安 藤 誠 也\*

### Fauna investigation using the automatic photography camera in the Kitanohara district of Mt. Sanbe

Seiya Ando

#### はじめに

三瓶山地区に棲息する哺乳類相についてはこれまでに31種が記録されているが（大畠，2006），正確な記録が無い種も少なくない。哺乳類相を明かにするために記録の蓄積が必要である。一般的には生体捕獲や目撃、足跡などの痕跡の確認によっているが、近年では自動撮影カメラによる記録も有効である（塙田ほか，2006；福田ほか，2008）。

本報告は、哺乳類相把握のために2012年7月より行っている自動撮影カメラを用いた調査で撮影された哺乳類を報告する。また同時に撮影された鳥類についても報告する。

#### 調査地

調査地は三瓶山の主峰である男三瓶山（1,126m）の北側で、国立三瓶青少年交流の家付近にある北の原で唯一の湧水地である。ここはイノシシ (*Sus scrofa*) によるヌタ場としての利用も認められる（図1）。湧水地の上空は、落葉高木が優占して存在するために開けている。季節によって流れは涸れることがあるが、イノシシが泥浴び（ヌタウチ）をすることによって水溜りが形成される。この付近には多数のヌタ場があるが、そのうちの2つ（ヌタ場I・IIとする）を撮影対象とした。

水溜りの大きさは、ヌタ場Iで長軸190 cm、短軸155 cm、ヌタ場IIは長軸110 cm、短軸100 cmである。



図1 調査地概況とヌタ場で泥浴びをするイノシシ

\* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8, Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan

## 方 法

2012年7月19日～2013年1月19日までの間、自動撮影カメラ（麻里府商事FieldNote Duo）2台を湧水地に設置した。この間の2台を合わせた撮影日数は182日で、撮影した写真は1,869枚であった。カメラの内1台は、ヌタ場から南方向に約3～4 mに位置する樹木の幹（地上から1.3 mの高さ）に固定し、ヌタ場Ⅰ・Ⅱとその周辺が広角に写るよう設置した。もう1台はヌタ場Ⅰの水溜りの岸に三脚を使って設置し、ヌタ場Ⅰの近景が撮影されるようにした。

## 結 果

哺乳類ではイノシシ、テングコウモリ (*Murina hilgendorfi*)、アカネズミ (*Apodemus speciosus*) など10種が撮影された（表1・図2～図11）。テングコウ

モリはこれまで三瓶山地区において未確認であり（大畑, 2006）、今回が初の記録となる。また、イエネコ (*Felis catus*) についてはこれまで報告されてこなかったが、野生状態で生活していると推察されることから報告することとした。ニホンノウサギ (*Lepus brachyurus*) は積雪期に白色の個体が撮影された。撮影された写真の判読により、それぞれの種が湧水地で行っていた行動を示した（表1）。哺乳類では、泥浴びはイノシシのみで確認された。水を飲む様子はイノシシ、アナグマ (*Meles meles*) で確認された。採餌行動は、テン (*Martes melampus*) が水中に顔を入れて何かを摂食しようとする様子が撮影された。

鳥類はフクロウ (*Strix uralensis*)、アカショウビン (*Halcyon coromanda*)、アオゲラ *Picus awokera*、など15種が撮影された（表1・図12～図26）。鳥類では、アカショウビン、アオゲラ、ヒヨドリ (*Hypsipetes amaurotis*)、シジュウカラ (*Parus major*)、イカル (*Eophona personata*) を除く10種で水浴びが確認された（表1）。

表1 確認された哺乳類と鳥類および各種のヌタ場での行動

区分	科名	種名	ヌタ場での行動
哺乳綱	イノシシ科	イノシシ ( <i>Sus scrofa</i> )	泥浴び、水飲み
	ヒナコウモリ科	テングコウモリ ( <i>Murina hilgendorfi</i> )	不明
		コテングコウモリ ( <i>Murina ussuriensis</i> )	不明
	ネズミ科	アカネズミ ( <i>Apodemus speciosus</i> )	不明
	イヌ科	タヌキ ( <i>Nyctereutes procyonoides</i> )	不明
	イタチ科	テン ( <i>Martes melampus</i> )	何かを摂食？
		イタチ ( <i>Mustela itatsi</i> )	不明
		アナグマ ( <i>Meles meles</i> )	水飲み
	ネコ科	イエネコ ( <i>Felis catus</i> )	不明
	ウサギ科	ニホンノウサギ ( <i>Lepus brachyurus</i> )	不明
鳥綱	フクロウ科	フクロウ ( <i>Strix uralensis</i> )	水浴び
	カワセミ科	アカショウビン ( <i>Halcyon coromanda</i> )	不明
	キツツキ科	アオゲラ ( <i>Picus awokera</i> )	不明
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ ( <i>Hypsipetes amaurotis</i> )	不明
	ツグミ科	トラツグミ ( <i>Zoothera dauma</i> )	水浴び
		クロツグミ ( <i>Turdus cardis</i> )	水浴び
		シロハラ ( <i>Turdus pallidus</i> )	水浴び
		マミチャジナイ ( <i>Turdus obscurus</i> )	水浴び
		ツグミ ( <i>Turdus naumannni</i> )	水浴び
	ヒタキ科	オオルリ ( <i>Cyanoptila cyanomelana</i> )	水浴び
	シジュウカラ科	ヤマガラ ( <i>Parus varius</i> )	水浴び
		シジュウカラ ( <i>Parus major</i> )	不明
	アトリ科	アトリ ( <i>Fringilla montifringilla</i> )	水浴び
		イカル ( <i>Eophona personata</i> )	不明
		カケス ( <i>Garrulus glandarius</i> )	水浴び



図2 テングコウモリ



図3 コテングコウモリ



図4 アカネズミ



図5 タスキ



図6 テン



図7 ニホンイタチ



図8 アナグマ



図9 イエネコ



図10 イノシシ



図11 ノウサギ



図12 フクロウ



図13 アカショウビン



図14 アオゲラ



図15 ヒヨドリ



図16 トラツグミ



図17 クロツグミ



図18 シロハラ



図19 マミチャジナイ



図20 ツグミ



図21 オオルリ



図22 ヤマガラ



図23 シジュウカラ



図24 アトリ



図25 イカル



図26 カケス

### ま　と　め

今回の自動撮影により、これまで未確認であったテングコウモリが記録された。今後も継続的にカメラを設置し、未確認種を含めた哺乳類相の情報収集を進める予定である。

1地点での撮影であるが、哺乳類10種・鳥類15種が確認された。三瓶山は火山地形のため周回道路より内側は水場が少ない。そのため、この湧水地は多くの哺乳類・鳥類が利用しているものと思われる。また、渴水する時期においてもイノシシが泥浴び（ヌタウチ）することで水溜りが形成され、それを他の哺乳類、鳥類も水場として利用していることが確認された。

イノシシに関する研究は行動や食性など、農業被害

対策に関する研究は国内で多数行われている。しかし、生態系における役割を調べたものはほとんどない（大井、2004；高橋、2006）。今後、三瓶山地域において他の水場との比較をすることで、イノシシのヌタ場が生態系で果たしている役割について明らかにしていきたい。

### 謝　　辞

三瓶自然館の大畠純二氏には哺乳類に関する情報を提供していただいた。この場を借りてお礼を申し上げる。

### 参　考　文　献

- 阿部 永（監修）（2005）日本の哺乳類〔改訂版〕. 206pp. 東海大学出版会.
- 福田秀志・高山 元・井口雅史・柴田叡式（2008）カメラトラップ法で明らかにされた大台ヶ原の哺乳類相とその特徴. 保全生態学研究 13: 265-274.
- 真木広造・大西敏一（2001）日本の野鳥 590. 654pp. 平凡社.
- 大畠純二（2006）島根県産陸棲哺乳類目録. 島根県立三瓶自然館研究報告 4: 7-16.
- 大井 徹（2004）獣たちの森. 244pp. 東海大学出版会.
- 高橋春成（2006）人と生き物の地理. 120pp. 古今書院.
- 塚田英晴・深澤 充・小迫孝実・須藤まどか・井村 純・平川 浩文（2006）放牧地の哺乳類相調査への自動撮影装置の応用. 哺乳類科学 46 (1) : 5-19.